

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第1分科会 第2回会議
2 開催日時	令和元年10月21日(月曜日) 14時00分～16時00分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館5階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名	姫路市総合計画策定審議会委員 第1分科会 委員 12人中 9人(3人欠席) 姫路市総合計画策定審議会委員 第2分科会 委員 1人 姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 2人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可(5人) 傍聴人(0人)
6 議題又は案件及び結論等	1. 開会 2. 事務局説明 3. 審議 4. その他 5. 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開会 (14:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・お手元の次第に基づいて進める前に、前回の分科会で委員の皆さまより、ご質問があった地方創生に関する考え方について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料]</p> <p>当日資料 新総合計画における地方創生の考え方について</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明についてご質問、ご意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ひめじ創生戦略の五つの基本目標について、新しい総合計画の九つの分野目標（案）の、例えば、「地域経済の活性化」については、どこに対応しているのか。また、「新しいひとの流れを創生」についてもどこにマッチングしているのか教えてほしい。それぞれ五つの項目が右側の九つの分野別目標に対応しているわけではないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・五つの基本目標と九つの分野目標は、一つ一つが対応関係にあるのではなく、総合的に対応しているものと理解いただきたい。 ・雇用の創出であれば、四つ目の、「世界に誇れる価値を生む地域産業【産業分野】」や、「命・くらしの支え合い【健康福祉分野】」は生涯現役のことを加味した内容であるので、こういった部分で対応している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・急にこれから雇用を創出すると言っても、人口減少により若い人の確保は確実ではないため、女性や高齢者をいかに有効に活用するかという方向も一考しなければいけないのではないか。 ・女性が活躍する場を創出することや、高齢者の定年が75歳の時代になることを考えながら、行政としての活性化策を検討する必要がある。これを具体的に指針として、定めていく方向を考えてはどうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・分野目標の下に、どういった方法でこの分野の目標を実現していくかという政策があり、その政策の下、実施計画の中で具体的な施策や事業といった細かいものが枝状にぶら下がってくる形になる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の考え方は、分野横断的に捉え、四つの分科会を覆うようなもので、それぞれの施策の中で提案させていただくものである。このペーパーについては11月に予定している、3回目の分科会で改めて説明をさせていただく。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・創生戦略についてニュースベースで聞くところでは、ふるさと納税などで目立った市や町があればアンバランスだといって抑制する雰囲気がある。あのようなニュースを見ていると創生戦略でも目立ち過ぎると叩かれてしまうような環境がある感じもする。 ・ひめじ創生戦略の五つの基本目標がすでに実施されているとして、具体的にこういうことが市民の前で具現化しているということをPRできるようなことはあるのか。まちなかに、「あれは創生戦略の議論から生まれたものだ」、といったものがあれば分かりやすい。
事務局(地方創生推進室長)	<ul style="list-style-type: none"> ・五つの基本目標のうち、(1)(2)(4)(5)は国が設けたもので概ねどこでも同じように分けている。姫路市は特色として、(3)の生涯現役を入れている。これは単にカテゴライズであるため、しようとしていることを新たに総計の中でカテゴライズすれば良い。 ・ご質問の地方創生で目に付くことについては、「(5)播磨の中核都市として魅力ある都市・圏域を創生」では、播磨圏域連携中枢都市圏を日本で最初に作ったことが一番目立つところである。その他には、ひめじ創生というのは、「(1)地域経済を活性化し、安定した雇用を創生」というところで、まず経済から取り組むとしている。まちなかでは「あっと！姫路」というラッピングバスが走っていると思うが、これは都会に行った子ども

	<p>の親に姫路の良い企業を PR する、姫路地盤の企業に若い子を雇用するためにはこんな PR が必要だと伝えるなど、少し視点を変えて、若者が地域に残ってもらうための事業をやっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひめじリコチャレ応援バスツアー」として、姫路の女子中学生で理系に興味のある方に、兵庫県立大学で、理系で学ぶとはどういうことかということを読んでいただく授業を実施している。 ・その他に、播磨、姫路の地場産業として、お酒をキーワードとしてイベントを多数実施している。姫路の駅前に「酒だるいす」という酒樽を飾ったベンチを駅北側に四つ設置している。他にも 180 余りの事業をしているが、今紹介したものが代表的なものである。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にご質問、ご意見はないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに、「まち・ひと・しごと創生戦略の第 2 期における新たな視点を踏まえながら」と書いているが、どれが新たな視点かがわからないので教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まち・ひと・しごと創生戦略の新たな視点は、資料の一番下の参考と書かれた枠のところである。これが国の方で、まち・ひと・しごと創生総合戦略で提示している新しい視点である。
事務局 (地方創生推進室長)	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生は40年先の人口のことで、大きくは変えられないが、5年経ったので、新しいことも加えようということが入ってきている。一つ一つが今までの流れからすると新しいことだが、特に、人材を育て活かすというところは、IoTやAIなど今どきの新たな課題が出ているのでそういったものとリンクした人材を育てるというものである。4番の民間と協働するところもピックアップして言われているところかと思う。手前味噌であるが、6番の地域経営の視点で取り組むところでは、市町村間の広域連携は重要であるということで、新しい視点の中に入れていただいている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他に質問はないか。それでは次の次第に進む。

分科会会長	<p>2 事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料1 新総合計画の構成」について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料] 資料1 新総合計画の構成</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今の説明についてご質問、ご意見はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日欠席の委員よりこの政策案についていただいている意見をご紹介します。 ・『第1回分科会で意見も出たが、市民活動の4政策は多すぎるのではないかと。政策2「人権尊重社会の形成」に、政策4「国際交流・異文化理解の推進」を統合できるのではないかと。性別や国籍、年齢に関わらず多様性が認められる社会がまさに人権尊重社会である。また、政策1「多様なコミュニティ活動の推進」と政策3「市民文化活動の推進」も、「多様な市民活動の推進」として括った方がよい。これからの人口減少や高齢化を考えると地縁団体中心の市民活動は高齢化で先細りする恐れがあるだろう。SNSなどを通じて、コミュニティ活動に、市外在住者や若者にも参加してもらうためにも限定しない方がいいと思う。』という意見をいただいている。 ・この意見について事務局の考え方を述べさせていただく。市民活動分野は、今回の新総合計画を市の「まちづくりと自治の条例」に基づいて策定するという中で、市民の参画や協働に非常に重点を置いている。そういった関係上、市民活動分野はある程度手厚くし、二つの政策をまとめるよりも現時点の政策数で、それぞれ政策で厚みを持たせることが望ましいのではないかと考えている。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動分野の4政策は、並列の関係でいいのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中身の厚みなどの違いはあるかもしれないが、政策に優先順位を付けているわけではない。

分科会副会長	・分野目標としてこれでいいということか。
事務局	・政策についてはそれぞれ独立している。
分科会会長	・よければ、次第3 審議に入る。
分科会会長	3 審議 ・資料2、資料3の「分野目標（案）」「政策（案）」について事務局から説明をお願いします。
事務局	[説明資料] 資料2 市民活動分野 分野目標 資料2-1 市民活動分野 政策1 資料2-2 市民活動分野 政策2
分科会会長	・これから大きく三つに分けてご意見を伺いたいと考えている。まずは資料2の分野目標についてご意見をいただきたい。
参与	・先日、第3分科会に出た時には、分野目標ではできるだけ「等」を使わないという話があったが、ここでは「等」が入っている。
事務局	・分野目標の枠囲みは、事務局としても意見をいただきたいと思っている。第2分科会では、「等（など）」という言葉はすべて取った方がいい、「等」と書くのであれば、それが何を示すのか、全て欄外にでも書いた方がいいという意見を聞いている。逆に第3分科会では、ある程度例示的に描いた方が分かりやすくいいのではないかという意見を聞いている。事務局の方でも迷っているのご意見を伺いたい。
委員	・「NPO、企業・団体等」の「等」の具体的な例はあるのか。
参与	・「等」をやめて「各種団体」とするのはどうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等の等にどのようなものがあるのかということでは、ここでは行政も入ってくるので、「NPO、企業・団体等の多様な主体が」を「NPO、企業・団体、行政が」という表現も考えられる。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「等」に行政が含まれているとするのはどうなのか。 ・この分野目標は主語がわからない、通常「姫路市は～します」というのが総合計画だが、ここは姫路市はという記載がない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この総合計画は「まちづくりと自治の条例」に基づいて作るもので、行政だけではない。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・もちろんそうではあるが、立場を明らかにするというような意味で、姫路市がどうするのかという宣言をする必要がある。 ・もちろん、市民・企業・団体が頑張らなければいけないが、それに対して姫路市がどうするのか、市のスタンスが入る必要があるのではないか。支援するのか、皆さんに計画に参加してもらおうというスタンスなのか。市としてこのような活動に対してどういった立場で取り組んでいくのかが見えた方がいい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の中には、姫路市だけでなく国や県も入る。 ・分野目標であるので、市民、民間団体と行政が同じ立場でまちづくりに参画するというスタイルを説明している。その分野目標を実現するために、それぞれが何をしていくのかというのが政策や、その下の施策、事業に繋がっていく。 ・その中で市の役割は、支援であるとか、相談を受けるとかいったことを具体的に、実施計画の中に書き込んでいくことになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりをするという観点では、行政が主体として抜けているというのは違和感がある。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「等」を取って「行政」に置き換えたほうがより良いということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体というのが主語なので、それを説明するにあたって「等」が入っていることについては、違和感はない。ただ、行政が「等」に隠れてしまうのは適切ではないと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「等」には、個人として活動する主体もいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・任意団体は NPO に入っていると思っている。NPO 法人という表現でなければ、NPO には任意団体も含まれていると思うが、「多様な主体が」と言ったときに、個人が抜けているのを感じている。コミュニティの担い手不足のところを書いていくときに、個人がどのように参画していくかというところが重要になってくる。個人は主体の一つとして大きな役割を果たす。 ・それを踏まえると、後ろに書かれている「市民一人ひとりが」という記述を前に書くなどすることで、個人が多様な主体の中に入るという印象にすることができる。 ・「等」の問題については、この後に附則が来ると思うので、そこでカバーできるのではないか。 ・分野目標を最初に決めてしまうと、政策 1 から中身を審議した際に、また戻ることになるので、次の政策を審議した後に戻ってきた方がいいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分科会においても、分野目標では意見が出にくかった。政策を議論していく中で意見が出るということもある。次回も市民活動分野の政策を議論するので、分野目標は今回と次回、合わせて見ていただくのもよいかなと思う。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目標なので一文にしたい気持ちも分かるが、分野目標が一文でなければならない理由はあるのか。前半は地域、次にダイバーシティの目標を話して、結論的に心豊かという構造だと思うが、一文である必要性を感じない。

事務局	<p>議論をしているのが空間的な話と、個々人の価値観の話をしているので、無理に一文にする必然性を感じない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考1をご覧いただきたい。明らかに二つの分野をまとめた「観光・スポーツ」と「防災・安全安心」は二文にしている。その他については、一文に体裁をまとめている。 ・市民活動分野では背景の四つを一つの分野としているところがあり、難しいのは承知の上で、事務局としては1分野を一文で示す形にしたいと思っている。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目的は1分野を一文で示すことではない。計画のマインドや意図を市民と共有することである。そのときに、分野目標を一文にするのかということに拘ることは極めてナンセンスである。少なくともこれを読んで市民がわかるのかというのが正直なところである。主語の話もそうだが、色々考えられてこうなっているのだとは思うがいかがか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「あたるとともに、」のところで二つを一つにしているというのは文章的な無理がある。ニュアンスの異なるものを一つにしているのを感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「～多様な主体が輝くまち～」として目標が掲げられているが、それがパンフレットか何かででてきても、言葉尻だけで、姫路市の方針が出ただけでは、市民が明るく輝く変身するような浸透力はないと思う。 ・姫路城が世界遺産になって観光客が増えているということだが、私自身は毎日お城に行く人にすれ違ったり、同じ方向に歩いたりするので毎日それを実感している。 ・ヨーロッパやアフリカから多様な人が来る割には、姫路市民はこれだけ世界から来られる方に対してほとんどアプローチしていない。 ・行政が決めたことは、高校や中学にも方針として共有され、それぞれのカリキュラムの中で姫路独自の国際交流関連の授業が実施されている。文化振興にしても、コンベンションセンターができるはあるが、既に中学や高校で文化活動的なものが実施されているが、学校教育のところまで共有

事務局	<p>されているのか疑問に思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生や高校生が見てもわかりやすいような、別の概要版は作成する予定でいる。学校で教材として使っていただくためにそういったものを作る予定である。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・時間もあるので、各政策の議論から戻ってから、「等」問題、1つの文章でいいのかについて議論したい。 ・資料2-1、政策1「多様なコミュニティ活動の推進」というところについて、右下の、「目指す姿」「方向性」「市民、地域、企業・団体に期待すること」どこからでもいいのでご意見をいただきたい。普通こういったものは、市で計画を整えて出してきたものに文句を言って修正して終わるものだが、姫路市はいろんな資料をだして、みなさんに目指す姿や期待することを議論していただいて、それを一旦市でまとめてもう一度皆さんが精査できるというシステムになっている。今日はできるだけたくさんアイデアや、日頃思っておられることをガンガン言っていただければと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現状分析の弱みの中で、「コミュニティ活動の担い手が不足」「自治会役員の高齢化」「加入率低下」などがある。イメージとしては若い人が自治会活動に参加していないというものだが、そういう事実ということによろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンルームマンションが林立し、オートロックで出入ができない事があり、自治体役員が話に行けないということがあり苦慮している。 ・もう一つ、自治会が疲弊しているのは、夢前、安富、香寺、家島の合併4町で高齢化が急速に進み、役員の担い手が減少している。連合自治会で各地区を回ってヒアリングしてどういう手当がベストか模索している。 ・自治会加入率に関しては、都市部でのマンションの問題が10%ぐらい下げている。田舎では100%に近い加入率だが、都市部では80、70%で、平

委員	<p>均で 90%くらいである。それでも全国と比べると姫路市の自治会加入率は非常に優秀である。滋賀県の大津から研修に来る。いかに自治会が加入率を維持しているかという研修をしてほしいという申し込みがある。年間に 3、4 地区は地域で研修に来られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状は、書いてあるとおりなのでこれは何らかの手当をしていく必要がある。 ・一般的な質問だが、なぜ姫路の自治会加入率が高いのか。 ・私は結婚してから姫路に住み始めた。自治会に入らなければ、ごみが捨てられないところなどがあり、半強制的に入っているところもある。どのような点で加入率が良いのか、どこを研修に来て見られているのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一つは地域の共同体であるということ。道路の清掃、公園の清掃、街灯の維持管理、公共的な設備の維持管理は当該自治会がボランティアで管理している。「美味しいものはみんなで食べよう、しんどいこともみんなでやろう」という精神で地域を守っている。 ・もう一つは、地域には伝統的なまつりや地域行事がある。これを学校と共同で開催したり、スポーツクラブ 21 や消防団など各種団体一緒にしたりする仕組みができています。総代さんがいて、その下に、各自治会の会長さんがいて、その下に各部長さんがいてという、きちんとしたピラミッドが昔からできている。転入した人はピラミッドのどこかに組み込まれる。そのような仕組みが当たり前で動いているのが姫路市である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が離れる理由は、その仕組みがわからないからである。そのように成り立っていることを知らないだけではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「しんどいことはしない。美味しいものは食べたい」という人が多くなってきているからである
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・根本的な理由がわからないだけで、説明すれば理解できる人はいると思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌だから加入しないというのは今まで聞いたことはない。説明して納得していただいて加入してもらおう。 ・問題は寄付行為である。お祭りなどがあると、10万、50万などの寄付を集める。それを新しく来られた方は非常に驚く。そういったものはこれから見直さなければならない。 ・行政側にもお願いしないといけないが、自治会のコミュニティ活動で、地域で絶対に残していく必要があるものは、財政的に支援をしなければ継続していくことができなくなる。来年度以降の連合自治会の課題である。 ・大きな寄付行動についてはできるだけ自粛をする方向で話を進めていく。お金を出さない代わりに動員で協力するのも一つの方法、「年寄りには動けないからお金で」というのも一つの方法である。地域に何らかの仕方で貢献していただくというのが、今までの暗黙の仕組みである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・表現にして、しっかりと伝えた方が良いのではないかと。15年住んでいるがそういったことを聞く機会もなく、誰に聞けば良いかもわからない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路は住み良いところである。人情も厚い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の話とずれているかもしれないが。私は駅の近くのマンションに住んでいるが、自治会があること自体をまず知らなかった。コンタクトを取ることが難しいということもあるだろう。また、マンションは管理組合があったり管理会社へ委託していたりと一つのコミュニティとして完結してしまっている。 ・自治会で協力しなければ生活環境が守れないということがないので、なかなか加入のインセンティブとして難しい。そういった新しい地域に対しては、何か自治会組織に参加するメリット等を示す必要がある。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市は自治会加入率が全国でも高い。姫路市からも様々な仕事が自治会に委託されている。姫路市の回覧や広報ひめじの配布など。年々自治会に任せている仕事が増えている。それらの精査と、委託料の見直しも考え

<p>委員（第2分科会副会長）</p>	<p>ていかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の総合計画は、10年先を考えて今からどうするかということを議論するものである。その時に、自治会が現状はこれだけの加入率があるが、例えば婦人会や老人会など同じような団体はどんどん崩れていっている。担い手が、従来では60～65歳で自治会の中心になっていた人が、雇用の延長により70歳、75歳にならないとリタイアできない。 ・そうすると老人クラブと自治会の何が違うのかということになる。婦人会も実態は自治会の中で活動されている方もいらっしゃる。そういった要因もあり、将来的に担い手がどんどん少なくなっていく。 ・マンションには自治会担当がいて、お金だけ支払っているというところもあると思う。そうするとすべての小学校区を一律に議論することは難しく、町の自治会、およびNPO法人などがある程度パターン化されていく中で、具体的な支援と、あるべき姿に関する議論をこの中に盛り込む必要がある。 ・姫路の素晴らしい自治会の加入率の高さも維持するとしても、担い手がいなければ難しい。祭りがあるから自治会加入率が高いと聞いたが、若い人が祭りのある地域を外して他の地域に住みたいというのを聞いている。そういったことも含めて、地区別に、グループ別に自治会を中心とした多様な主体というもの、街なかと郊外で変わってくる。 ・商工会議所で地区別の人口動態を調べたが、今のままでいくと壊滅的な人口構成になる中、維持をしろと言ってもなかなかしんどい。車の免許も返納しないといけない、車がないと配るのも不便である。 ・自治会のあり方について具体的にどういった支援の方法があるのかを考えることも必要であるし、委託内容の見直しなど、様々なことを計画の中で具体的に考えなければならない。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、一昨年と2年かけて全市を回ったが、一番困っているのは奥の方。例えば、30所帯あったところが、あっちのおじいさんが亡くなり、こっちのおばあさんが亡くなり、戸数がどんどん減っていく。 ・一番心配しているのは、自治会をなくすとある地域で言い出した時にど

	<p>ういった手当の仕方があるのかということである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢前、香寺、安富、家島の連合会長さんに言っているのは、全体を一つするということである。夢前や香寺では、谷筋や川筋で上、中、下とグルーピングしていくような方法も検討課題として提案している。 ・もう一つ、行政にこれからお願いしないといけない課題でもあるが、固定資産税の問題がある。村の財産の固定資産税を払えない。財源が無くなり、戸数が減っていく中で、年金暮らしの高齢者が支払うのは難しい。 ・婦人会が現状あのようなになったのはその辺がきっかけである。役員がいらないなどでどんどん会員が減ってパンクしてしまった。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討課題のアで様々なご意見が出ているが、検討課題イヤウに関して意見はないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ピラミッドの組織図のようなものはあるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各村、各地区の自治会長が把握している。神社仏閣の仕組みが違うのでそれに合わせた形で各地区がピラミッドを作っている。連合自治会長が総代でその下に、単位の自治会長がいて、その下に民生委員や消防団、スポーツクラブ 21、婦人部、農区、水利など諸団体が並んでいてそれぞれにリーダーがいる。町と田舎でも違うし、町有財産があるかどうかでも変わってくる。その地区で確認してもらわないとわからない。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市は、制度はできているが、運用が今一つ活性化していない、うまく回っていないという印象がある。今の話題にも関わるが、「まちづくりと自治の条例」は市民の生活の全分野に関わることであり、全分野において真剣に考えなければならないと思う。協働やまちづくり、自治といったものを、企画あるいは市民活動という課だけが担当するという体制では、運用は難しいだろうと思う。 ・「お願いするもの」と書かれているが、そういうものなのかとも思う。そういった体制を組まないと実現できないものなのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区のそれぞれの個別の事情やしがらみがあり、それを参酌しながら施策を進めていかないといけない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民、地域、企業・団体に期待すること」についてのご意見だと思う。おっしゃるとおりであるが、総合計画であるためある程度ざっくりとした表現になってしまうということをご理解いただきたい。 ・地域の事情を踏まえたものも必要だということについては、市民活動分野での個別の計画があるので、その中で地域ごとの特色や、行政と連携することを具体化していく。 ・総合計画では、すべてに共通する、「姫路市の全ての地域でやっていかないといけないこと」、「市民はこういったことを考えて取り組まないといけないこと」を書き込んでいきたい。 ・「お願いするもの」という書き方は、行政からの押し付けや強制のようにしたくないという気持ちの表れによるものである。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「お願いするもの」がおかしいと言ったニュアンスは、「協働の中に行政が入るのにどうして?」と思ったということである。 ・「コミュニティ活動の新しい担い手を確保・育成」とか「多様な主体が効果的に協働」というのは、10年前も同じことを言っていた気がする。ある程度 NPO やコミュニティで育っているものもあるではないか。それを踏まえて新しいフレーズ、キーワードが必要になる。 ・NPO や市民のグループが育っていくためには、市が業者に任せていたことを市民グループへ委託するようなことをさらに活発化させなければならない。最初は非力かもしれないが、育成するつもりで普段の甲乙の関係ではない協働の契約の仕方といったものを模索することで、人づくりや NPO 育成につながっていくのではないかと。違うキーワードを入れて次の育成を考える必要があるのではないかと。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・分野目標の書き方にもある程度メッセージ性が必要である。今の話を私なりに理解しても、この分野目標では、現実も適切でないし、将来像も無味乾燥で残念な結果に陥りそうである。少なくともキーワード的に「一緒

事務局	<p>に考えます」「新しい仕組みを展開します」「一緒に創造的に何かをおこします」といった夢だけを語っても意味がない。「協働の仕組みを姫路モデルとして考える」といった具体的なことは別問題としても、何か次のフェーズに対応できるようなことを考える必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの自治会の区域の再編などはあつてしかるべきであると思っている。自治会などの地域団体を中心として考えるとして、それが姫路にとって重要だとしても、このいまの分野目標では、地域の特性や、持続可能な話も考えられていない。行政批判をするつもりはないが、協働の新しい在り方、あるいはアウトソーシングの仕組み、そういうものを「考えます」「検討します」という書き方をしてはどうか。「みんなで考えましょう」でも良いと思っている。 ・今のご意見は、目指す姿の下の説明文について、具体的な方向性が必要であるということかと思う。事務局の方で改めて考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートシティのセミナーで言っていたのは「スマートシティを支えるのはスマートシティズン」であるということである。主体となるのはあくまで市民であつて、市民が自ら変えていく行動をする必要があるというニュアンスは落としてはいけないと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次の政策、2「人権尊重社会の形成」にいきたいと思う。4ページ右下の内容に沿つてご意見いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・左の方（強み）に記載している「いじめ防止基本方針の策定など、いじめの早期発見・早期対応への体制が整備されている」について、昨今いじめのニュースが出るたびに、現場の実情調査を実施しているのかと思う。姫路市ではそういったニュースはないので安心しているが、実態を調べてわかっているのか。
事務局（学校教育部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについては学校から月ごとに報告させていて、今のところ姫路ではそのような大きな問題は確認できていない。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ではいじめの有無について、学期ごとに子どもにアンケートをとるなどしており、アンケートの中にいじめや、いじわるされたといったことがあれば担任の先生が、本人と話し合っ、現状を把握してそれを上げてもらうことをしている。 ・今のところ、姫路では先生方や、地域、保護者の方も含めてのお力で、大きないじめなどの問題は、防げていると認識している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習会が年間で計画されており、53万人の人口に対して、16万人強の参加者がおり、割合としては30%ほどで優秀である。人権に関しては意識レベルが高いと思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分科会の取組についても参考にお伺いしたいが、ここで女性が取り上げられているが、私は、女性はマイノリティでもないし、弱者ではないと考えているが、他の産業分野などで女性に対する政策や取組、目標などで特記して挙げられていることはあるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力減少が課題であるため、労働力の確保という位置づけで、女性や高齢者の活用という施策は挙げられている。 ・労働力の確保という意味での女性の捉え方であれば、その分野でも様々な課題があるため、結構である。こちらの分野では女性がどう自分の人権を守りながら、自分の進むべき道を選んでいけるかということが重要である。労働としての女性のあり方、家庭での母親としてのあり方、そういったところも女性の人権という意味では明記していただければと思っている。 ・どうしても、男女共同参画や女性や子どもの人権問題では、DVやジェンダー等の問題になりがちだが、そういった特殊な例ではなく、一般的に女性が生きる上で、選択を迫られることはたくさんあるので、そこを姫路市はどのように考えていて、女性が生きやすい市を目指しているということを確認していただくことで、姫路市の魅力がアップしていくと考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・住むところもそうだが、家庭内における女性の意見はかなり大きいので、そういったところで姫路市の姿勢を明確にしていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・弱者の方が簡単に相談できる場所があるのが大事である。学校にはアンケートなどがあるが、市民向けには何かそういったヘルプライン、相談窓口はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人向けや、女性向けなど、それぞれで窓口が設置されている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それはNPO みたいところが運営しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市の直営で、人権啓発センターで相談対応している。男女共同参画や国際交流など、それぞれの窓口で対応している。ワンストップにはなっていないがそれぞれ専門の窓口が特化して問題の解決にあたっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口はワンストップにしないといけない。そこに言えばどこかにつないでもらえるという仕組みを横断的に作らなければならない。たらい回しにされるイメージがある。それもこれからの課題である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題は個人の意識の問題になってしまうのでそういった意味ではいろんな分野の話になるが、ワンストップの相談窓口があるということも、意識を醸成するうえでも必要かもしれない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市の窓口としては、市民総合相談窓口があり対応しているが、専門的な相談になってくると専門の窓口を紹介することになる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重社会（政策2）の中で、「女性が活躍できている」という表現を入れるということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「活躍できている」ではなく「活躍を推進する市でありたい」といった姿勢が見えるようにしてもらいたい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それは保育園の確保や、潜在保育士の確保といった施策に反映されると思うので横断的なものと感じている。 ・男女共同参画は、庁内でも横断的な進め方が必要なものである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分野の政策で、そのようなことに触れないのであれば、第1分科会のところで書いた方がいいと思う。 ・行政的には男女共同参画推進課はあるけれども、この分野は雇用だから産業だとか、保育園のことだから福祉だとか、窓口は違うと思う。それと同じで総合計画でも、取組については女性に改めて述べるのか、あるいは他の様々な施策で述べているというようにするのか。 ・第1分野で述べるのであれば、「女性の活躍を推進する姫路市でありたい」というところを記載してもらいたい。 ・窓口の一本化がそのあたりで重要で、女性が何か困ったときに相談しに行く場所が分かり、そこに行けば次につないでもらえる。そういった女性の支援窓口も必要になってくる。 ・そのあたりがNPOやコミュニティ活動の協働にも関わってくると思う。地域の民生委員もいらっしゃるし、活動されている方もいらっしゃる。そこどう連携、協働していくかは、行政が窓口になるわけではなく、民間が窓口になるということも考えられる。
委員(第2分科会副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少のなかで、特に若い女性の流出(社会減)が大きな課題である。姫路市が女性にとって暮らしやすいまちであるためには、働く場所も、子育ても重要であり、それで人が増えれば良い。それは大きく一つ姫路市として打ち出すスローガンとしてもいいと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分野別目標については、次回にご意見をいただきたい。今回の審議はこれで終了する。 ・最後に事務局から連絡事項をお願いします。 <p>4 その他</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none">・ 本日は長時間にわたりありがとうございました。・ 次回の分科会では、市民活動分野の残りの政策について審議する。・ 日程について、11月11日（月）18時、市役所北別館3階の会議室。・ 「#自称姫路市長」の取組について、委員に協力依頼。 <p>5 閉会(16:00)</p>
-----	--